

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2191100011		
法人名	株式会社 マル若商店		
事業所名	グループホーム ホープ		
所在地	岐阜県多治見市希望ヶ丘2丁目1番2号		
自己評価作成日	令和1年12月27日	評価結果市町村受理日	令和2年4月30日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaijokensaku.mhlw.go.jp/21/index.php?action_kouhyou_detail_022_kani=true&JigyosyoCd=2191100011-00&ServiceCd=320&Type=search
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 ぎふ福祉サービス利用者センター びーすけっと
所在地	岐阜県各務原市三井北町3丁目7番地 尾関ビル
訪問調査日	令和2年2月5日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

今年は、6名の入居者様が退所され、新入居者に入れ替わった。介護度も要介護1の利用者様が増え、色々リクリエーションの幅が広がっている。散歩、パズル、かるた、間違え探し、塗り絵、歌など様々取り組んでいる。11月の外食行事では、おばあちゃん市を經由して、小原村の四季桜を見物し、好評だった。 外出先も、以前より少し時間がかかる、遠方へ行けるようになった。外食は、楽しみにされている利用者様もみえるので、行先など希望に沿って決めて行きたい。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所は広大な住宅街の一角にあり、一歩外に出れば、近隣住民の声がかえ、散歩時には会話を交わせる環境である。代表と同法人のグループホームの管理者が集まり、健全な事業運営と人材育成について意見交換を行いながら、利用者本位の質の高いケア提供を目指している。また、利用者の脳の活性化を図る為に、職員間で様々なアイデアを出し合い、レクリエーションを企画し取り組んでいる。利用者の健康状態については、医療機関と連携して健康管理を行い、看護師が家族に説明している。管理者と職員は風通しの良い関係が出来ており、定着率に繋がっている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当する項目に○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価票

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	今年、介護度の高い利用者様が退去され、要介護1の利用者様が増えました。気候が良い時には、毎日町内を散歩した。町内にも、グループホーム利用者様の散歩の様子を周知出来た。	運営方針を基に、全職員が、利用者一人ひとりの今日ある機能を明日に繋げる支援に取り組んでいる。利用者の個性や生活習慣を把握し、申し送りや職員会議で日頃のケアを振り返りながら、利用者が笑顔で暮らせるよう実践に繋げている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	今年、施設が町内の班長になり、毎月の月報を配布している。分別ごみ立ち当番や草取りに班長としても参加している。	自治会との関係は良好であり、今年度は町内の班長を担いながら、祭りやどんど焼きなど、地域の行事に参加し、住民と交流している。また、住民の介護相談にも応じながら、事業所の存在と認知症についての理解を得られるよう努めている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議の折りなどに、以前は町内会長や、民生委員に案内状を出していたが、今年、町内の身近な知人などご近所に案内をしている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	31年度は、3月6月9月12月に開催した。今年、町内班長なので、回覧を回したりなど、地域の人と触れる機会が増えた。	運営推進会議は、3か月毎に開催し、自治会長、行政や家族の参加もあるが、今後は、より多くの参加が得られるよう、行事と兼ねた開催方法を検討している。行政から、地域住民に向けて、認知症の理解を周知する為の体制作りについて要望が出ている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	ホープ内の相談事や、課題については、日常的に市へ相談、指導を受けている。今年、8月に、指定事業所実施指導があった。	日常的に、空き情報や困難事例について相談し、助言を得ている。指定事業所実地指導の際に、拘束についての検討事項、研修受講について、意見交換を行っている。行政主催の会議には積極的に参加し、利用者サービスの向上に活かしている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体的拘束廃止のための指針について、2019.9月の会議にて、勉強会を行った。切迫性・非代替性・一時性の要件についても勉強した。	身体拘束等適正化委員会を開催し、利用者の状況に応じた支援方法について検討している。また、定期的に研修を行うこととし、職員会議や勉強会でも身体拘束の弊害を学び、拘束をしないケアについて周知徹底を図っている。外部研修にも参加して、拘束をしないケアに取り組んでいる。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	今年、市からも、年2回以上、定期的に身体拘束について、研修するように指導があった。又身体拘束が必要なケースが生じた場合には、毎月の職員会議でケースについて話し合い検討をしている。		

岐阜県 グループホーム「ホープ」

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	引き続き必要に応じて、社協とも協議、適正に継続した援助が受けられるようにしている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入所希望者様にはご家族や、利用者様に施設内を見学して頂き、契約書・重要事項・運営規定など詳しく内容を説明し、理解・納得を得た後契約を行っている。又不明な点は、随時説明できるように、努めている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	以前より家族の面会が多くなっている。面会者(ご家族)からの意見や、運営推進会議での意見は、すぐに取り入れ、施設運営に反映させている。	毎月、家族にホープ便りを送り、看護師による利用者個々の健康状態の報告は隔月に送付している。家族の訪問が多く、利用者の様子を報告しながら意見交換をしている。家族からは、「食事内容が良く、本人が喜んでいる。」「散歩中に、住民との会話を楽しんでいる。」といった声が届いている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月1回の会議で出た意見は勿論の事、申し送りノートに書かれた意見も、すぐ出来る事は実行している。	管理者は、毎月の職員会議や日常業務の中で、職員から意見や要望を聞き、出来る事から迅速に対応し、改善に努めている。施設長もまた、代表と話し合いながら、働きやすい職場環境、条件の整備に取り組んでいる。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	時給や労働時間など、職場環境の整備に努めている。その他、お誕生日プレゼント、年末エプロンプレゼント、親睦ランチ会などがある。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	年に数回同じ系列の、他のグループホームと交流があり、様々な情報を共有している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	隔月にたじみサービスネットワーク会議に出席している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ご家族から、出来る限りの情報をお聞きし、入居への経緯や、入居者様の置かれた立場などを、医療社会面からよく理解した上で、本人の立場に立ち安心していただける環境作りに努めています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご本人、ご家族の要望を良くお聞きし、困っている課題を見極めながら、ご本人らしく過ごしていただけるように、努力をしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人の希望を第一にお聞きし、ご家族と相談しながら、必要なサービスの提供するように、努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	認知症であっても、「介護される」という一方的な関係に置かず「共に暮らす一員」と言う立場で、信頼関係を築く努力をしている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	スタッフは、ご家族と利用者との関係を大切にしながら、共にご本人を支えている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご家族や、知人の方に、気軽に訪問して頂けるような関係作りに努めています。又利用者様と一緒に馴染みの場所へ訪問したりもしている。	利用者が、入居前に参加していたサークル活動の場所に行ったり、馴染みの店での買い物同行など、利用者の希望に沿って、関係継続を支援している。家族や知人の訪問時には、ゆっくり気兼ねなく過ごせるよう配慮している。個別の希望には、家族に協力を依頼している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	テーブルの席順は特に気を付けて、利用者が孤立や対立しないように職員が関係作りにつとめている。利用者同士が、自然に仲良く安心した生活が送れるように支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	他の施設などへ転居された時には、必要な情報を提供して、利用者様や、ご家族が混乱しないように努めている。入院された折には、お見舞いに行くなど関係を断ち切らない関係に努めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者の思いや希望に沿って日々快適に暮らしていただけるように努めている。体の動きや表情からも本人の思いをくみ取るようにしている。	十人十色の介護が事業所の方針であり、職員は個別対応の中で、会話や表情、しぐさ等から利用者の思いや意向を把握するよう努めている。困難な場合は、家族からの情報を得て、思いを推測し、できる限り希望を受け入れ、利用者満足につなげている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご家族から、利用者の生活歴・暮らし方生活環境など、詳しく聞き取り、職員間でも共有している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	入居者一人一人の生活リズムを把握して、本人に合ったリズムで対応するように努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	毎月の職員会議で、利用者全員のケースを検討している。医師や看護師の意見を参考にし、利用者やご家族の希望を介護計画に反映し支援に努めている。	介護計画は、家族の訪問時には、時間をかけて意見交換を行っている。申し送りノートや職員会議の記録をもとに、医師、看護師の意見を参考にしながら、関係者で話し合い、介護計画を作成している。利用者の今日ある機能を継続できるよう計画作りを行っている。	サービス担当者会議は、家族が参加できる日程で開催されることが望ましい。家族も作成時のメンバーとして位置づけ、意見交換しながらの介護計画作りに期待したい。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	申し送りノートや各利用者の個別ノートと日勤記録を作成し、日々のケアや気付きの情報を共有している。全職員が読んで利用者の情報を把握し、利用者個々に対し、統一したケアが出来るように努めている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	緊急時の通院介助や付き添いの支援を行っている。医療連携体制をとって、看護師による健康のチェックや相談も行い、緊急時には連絡し、かけつける体制もとっている。		

岐阜県 グループホーム「ホープ」

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	前年度同様、地域ボランティアの音楽療法コーラスや、瀬戸のコーラスボランティアさんが来て下さる。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医を受診される際は、家族が付き添われ、利用者様の状態を説明した文書を渡している。提携医療機関の往診は月に1度あります。ほとんどの利用者様が提携医療機関を希望されている。	契約時に、かかりつけ医についての事業所の方針を説明し家族の理解を得ている。従前のかかりつけ医や専門医への受診は家族同行とし、情報提供書を家族に手渡している。ほとんどの利用者が協力医をかかりつけ医として月1回の訪問診療を受け、看護師が日々の健康管理を行っている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護師による健康相談や健康管理を実施し、介護職からの情報により、身体的及び精神的ケアを行う。又異常の早期発見による早めの対応により、悪化を防ぐように努めている。かかりつけ医の受診や入院措置など迅速な対応を図っている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	ご家族の同意を得て利用者が入院した際は、看護師が立会い、ご家族の良き相談者となっています。又病院関係者と相談し早期退院に向け支援を行っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域との関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	契約時には、重度化した場合における医療体制指針を説明し、承諾を受けている。随時、主治医とご家族との今後の方向性を話し合い、グループホームでの生活を考えて頂く場を持っている。	契約時に、重度化や終末期に向けた事業所の方針を利用者と家族に説明し、同意を得ている。状態の変化時には、早い段階で医師を含めた関係者が話し合い、事業所でできる範囲を家族に説明しながら、方針を共有し、適切な支援が行えるよう取り組んでいる。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時の対応を各階に貼り出し、迅速な対応ができるようにしている。又、消防署の協力を得て救急救命法やAEDの研修を実施し、緊急時に対応できるよう努めている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防署の指導のもと緊急マニュアルを作成し、利用者も参加した消防訓練を定期的に行っている。ホープ防火管理者が町内でも防火管理者になり町内でも支援している。	年2回夜間を想定した火災訓練を実施し、初期消火、避難誘導、連絡網の確認等を行っている。災害時における福祉避難所として、市と協定を結び、近隣の協力体制も整えている。ホームの防火管理者が、町内の防火管理者となり、地元の防災訓練にも積極的に参加しながら役割を果たしている。	地震や水害についても、ハザードマップ等を参考に地域や行政と意見交換し、事業所としての具体的な防災対策を検討されたい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	言葉かけには注意をして、利用者様主体の生活を送っていただけるように気を付けている。	職員は、「利用者には、十人十色の考えがある」と常に意識し、利用者一人ひとりの人格を尊重した支援、声かけに努めている。特に、トイレや入浴介助時には、羞恥心に配慮し、本人本位の支援に努めている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	普段から利用者様とかかわりを深める努力をしている。本人の好みや生き方から、ご本人の希望を導くようにしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	散歩、パズル等のレク、歌など自由に好きなことに参加していただいている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	個性がはっきりとした利用者様が多いので、ご本人の希望に沿った衣類選びなどをしていただいている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	月に数回手作りおやつの日や、散らし寿司の日など特別な日を設けている。又外食行事なども行っている。	食事作りは、調理専門の職員が行い、利用者も準備や後片付け等の出来る事に関わり、職員も同じ食事を食べている。利用者から調理法を聞きながら、希望のメニューを提供することもある。食べやすくおにぎりしたり、利用者の状態に合わせた形態で提供し、行事食やおやつ作りは利用者の楽しみとなっている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	本人の健康状態に合わせた食事形態をとっている。朝のおやつタイムにもチョコレート2粒お茶やコーヒーと共にお出ししている。又食事量の少ない利用者様には、ラコールを処方してもらったりしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の口腔ケアを行っている。又部分義歯が合わなくなった利用者様は歯科にて点検治療してもらっている。		

岐阜県 グループホーム「ホープ」

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表を使い、排泄パターンを把握している。尿意があまり無い利用者様も表を活用して早めのトイレ誘導を心がけている。	トイレでの排泄が習慣になるよう、利用者の排泄パターンを把握し、昼夜とも声掛けと誘導を行っている。早めの誘導で失敗を減らせるよう支援し、利用者の自信に繋げている。安全面を考慮し、夜間はポータブルトイレを使用する利用者もある。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便チェック表を用いて利用者様の状況を把握している。便秘対応を個々に決めて看護師の指示により便秘解消に努めている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴の順番等は、できる限り本人の希望に沿う様にしている。又必要に応じ、入浴休みの日でも入浴して頂けるように努力している。	入浴は週2回を基本としているが、利用者の希望にも柔軟に応じている。職員は、介助しながら、利用者とのコミュニケーションを図り、ゆったりと入浴を楽しめるよう支援している。また、利用者の状態に合わせて、シャワー、足浴、清拭などで対応している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	各利用者の体調に合わせ、休息をとって頂くようにしている。日中と夜間のリズムをつけ安眠に繋げるよう心がけたり、話し相手になり安心して頂くよう支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の情報は医療ファイルを確認し、全職員が把握できるように努めている。服薬時には、日付や氏名、時間や錠数、確実に口の中に入った事を確認ミスがないよう徹底している。又服薬済み空入れを使用し、再点検を引き継ぎ者がしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	食材のもやしの芽取りなどは、できる人全員でしてもらっている。食前、後のテーブル拭きは利用者様にお願いしている。時々ぜんざいを豆から煮て利用者様に喜ばれている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	ご家族の協力で、外出、外食される利用者様が数名みえる。散歩やドライブの機会も設けている。毎週散歩に誘ってくださるご家族もみえ協力してくださっている。秋には、小原村四季桜を見に行くことが出来た。	天候や利用者の健康状態に合わせて、近隣を散歩している。散歩時に、住民から声をかけられることも多く、会話を楽しんでいる。年間行事として、四季折々の計画を企画し実施している。家族と共に墓参りや家の行事に出かける利用者も多い。	

岐阜県 グループホーム「ホープ」

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ホープにお預かりしているおこずかいの中から、パジャマや、身の回りの必要な品をスタッフと一緒に買い物する機会を設けている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	施設の電話を自由に使って頂いている。しかし、実際に利用されるのは2名の方が年に数回利用される程度である。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	居間にはソファを置き、居室入り口には暖簾をかけ、利用者がゆったりとした気分で過ごせるようにしている。居間には、1階2階それぞれ壁に季節に合わせた貼り絵やレクリエーションでの個々の作品等を掲出し、居心地の良い空間作りにも努めている。	共用の空間は適切な温度調整を行い、加湿器も設置している。壁面には、季節感ある手作り作品、絵手紙、思い出の写真を掲示している。食卓テーブルやソファなど、利用者が好きな場所で、新聞を読んだり、テレビを見るなど、居心地よく過ごせるよう工夫している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	狭いながらも居間には、主に食事をするテーブル・椅子やリラックスして頂く為のソファ等も設置し、利用者同士が自由に過して頂けるよう環境を考えている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	各利用者にとってなじみの家具や物があれば居室に配置できるようにしている。又ご家族様の写真等置かれる方もあり、その人らしい「自分の家」になるような空間作りを支援している。	居室には、電動ベッド、エアコン、整理棚が設置されている。テレビや馴染みの家具を持ち込み、使いやすく配置している。家族の写真や小物を飾り、落ち着いて過ごせる工夫をしながら、本人の残存機能にも配慮した部屋作りを行っている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	建物内部はバリアフリー構造で利用者の身体能力に合わせて自立して生活ができるよう配慮しています。本人の残存能力や生活の生きがいを保持して頂けるよう努めている。		